



人と企業とNPOをつなぐ市民情報紙
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

おっみネット

●発行日 / 2011年12月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

元気印 NPO ①

かばた
川端文化を守りながら
琵琶湖を守ろうと発信したい

まちづくり

針江生水の郷委員会

2

NPO法人 日野ダリア園

6

NPOのIT活用術

株式会社フタバヤ

5

世間よし〜企業の社会貢献〜

特集★OHMI視点

1

『買い物弱者を支える』 ずっと安心して住めるまちづくり

元気印 NPO ③

様々な方の自立を支える
環境を作って行きたい

障がい者支援

特定非営利活動法人
こほく自立応援センター

6

元気印 NPO ②

「貧困の連鎖」を
「希望の連鎖」に
繋げていきたい

学習支援

滋賀医科大学ボランティアサークル
「Atlas」

4

ずっと安心して住めるまちづくり 『買い物弱者を支える』

「買い物難民」と福祉のまちづくり 「N商店さんの「新しさ」」

立命館大学産業社会学部現代社会学科
教授 津止正敏

シャッター商店街が日本全国の商店街の代名詞になっている。商店街の平均店舗は二〇〇九年には五一・七店。一九八五年(八五・七店)との比較ではマイナス三四店にもなる。実に四割の減少だ(平成二十一年度中小企業庁委託事業「商店街実態調査報告書」ちば銀総合研究所)。今も更に加速して減っている。人口十万人未満の地域では更にその影響が大きいという。全国に六百万とも八百万とも言われる「買い物難民」をつくりだしている構造要因だ。加齢で心身の機能が弱る、運転免許がない、公共交通網が破壊されてバスも電車もない。加えて身近な商店街もなく



なった。「たった一丁の豆腐を買うためにタクシーを利用する高齢者」(杉田聡『買い物難民』)がまればではない。これは過疎地の話だけではないのだ。都市部でも同様の事態が生じている。

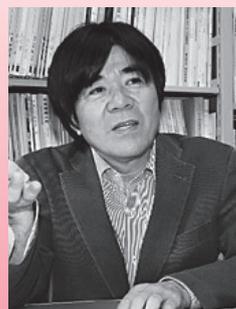
滋賀県でも地域の高齢化が進み、住んでいる街で最後まで安心して暮らせるのかと、不安を感じながら生活される地域が増えています。自分たちのまちで、ずっと暮らしたいと思う地域の人々がお互いに支えあい、安心して住めるまちづくりについて、ご紹介します。

もう三年前のことになる。京都市の山科区社協の協力で高齢者十六人にインタビューしたことがある。介護サービスを利用しながらひとりで暮らす高齢者だ。

Iさんの話。手押し車を押して外出する。歩いては休み、休んでは歩く。ゴミ出しでさえ大変。買い物なんてもう無理、だからヘルパー頼みだよ。食事は? 平日は特養ホームからの配食サービス。土日は? これは近所のヨロズヤさんに頼んでいる。なんでも。刺身が食べたいな、言うたらずに届けてくれる。ほんとに助かります。そのヨロズヤさんはN商店という。Iさんの話を聞いた後、学生たちと一緒にN商店を訪ねて事情を聞いてきた。その地域で商売して百年以上の歴史を持つ老舗だっ

津止正敏さん●プロフィール

京都市社会福祉協議会に20年間勤務。2001年4月より現職。地域福祉の現場に長らく携わってきたことから、地域を基盤とした社会福祉政策の研究及び地域福祉・ボランティアの政策や組織運営、プログラムについての臨床的研究が主な分野。「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」事務局長や滋賀県ボランティアセンター運営委員長を務める。



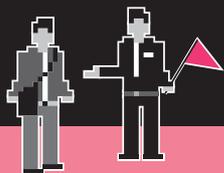
買い物弱者の問題を
コミュニティビジネスの
手法を使って解決する

「コミュニティビジネスとは、住民自らが主体となって「こんなモノがあれば便利、住みやすくなる、地域がよくなる」という思いがきっかけとなり、地域の課題や問題点を解決する手法です。」

地域資源を有効利用し、地域住民を積極的に登用しながら展開していく地域密着型のビジネスです。地域の多くの人たちの意見を参考にしながら、また事業に参加していただくことにより、当事者意識を持つてもらうことが必要です、そういうコミュニティビジネスには次の4つの組み合わせのバランスが大切といわれています。



代表●美濃部武彦 設立●2004年
会員数●83人
連絡先●高島市針江372
TEL/FAX：0740-25-6566
E-mail：shozunosato@lapis.plala.or.jp
URL：http://www.hariekabata.com



この町が大好き。 だから守り、伝える。 だからもっと好きになる！

針江の家々には、こんこんと水が湧き出す川端(かばた)があります。そこで野菜を洗ったり、お茶を冷やしたり、顔を洗ったり。そんな川端文化をはじめとする美しい針江地域を守り続

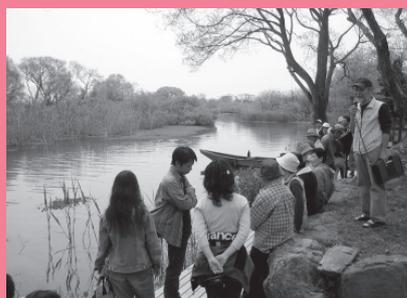


▲針江に107の川端があります。

け、年間のべ1万人以上が参加するガイドツアーなどで外の人に伝え広める活動を行っています。

ガイドボランティアさんの案内で見学をしていると、針江地域の持つ川端文化や自然の魅力と同時に、針江に住む人々の魅力にも気付きます。みんなが針江を大好きで、自信を持っており、楽しい「針江自慢」を話してくださいます。今回ガイドをしていただいた福田さんの「たくさんのお客さんに会えるだけで楽しい。お客さんと川端が私の財産です」と話してくれた時の笑顔が印象的でした。

この小さな町になぜこれほどの活気があるのでしょうか？
その答えの1つは、会長の美濃部さんの言葉から垣間見



▲ガイドツアーで船着き場を案内。

ることができました。「委員のみんなが『どうしたら針江がもっと良くなるか』『どうしたらお客さんに喜んでもらえるか』それを常に考えている。そしてみんなが自分のできることを

自主的にやる。そうした活動を続けることで、人と人のつながりが生まれた。」

そして今後については「針江地域に住む人だけではなく、淀川水系の人などいろいろな人が参加できる活動にしていきたい。川端文化を守りながら、琵琶湖を守ろうと発信したい」と大きな視点で未来を見ておられました。

なお針江は観光地ではなく、日常の暮らしの場です。見学の場合は必ずガイドツアーに申し込むようにしてください。(おうみネットサポーター 小林政夫)

た。老舗といっても民家をベースとした昔ながらのお店。日常生活用品がほぼ揃う。一皿百円の手作りのお総菜もあった。だってお客からの注文があるんだもの。うちのような店、昔はこの集落には一つはあったもんだ。でももうこの辺ではうちだけだ。インタビュアの最中にもお客さんとの井戸端なおしゃべりが続く。一本二十円のアイスに近所のサッカー少年も群がっている。でも儲からんよ。儲け考えたらやっつけられない。

い。半分ボランティアみたいなもの。そりゃあ何十年の付き合いだもの。半径五百メートル、この辺の人のことは何でも知っているよ。
ヨロズヤさん、ってコンビニのように全くコンビニと違うね。だってコンビニにはマニュアルはあるけどコミュニケーションはなからこそ「新しい」よね。何か風を呼びたいね。学生たちの感想だ。

郊外に広がる何百台もの駐車場を備えた超大型スーパー、街中にも大型店舗が幾つも凌ぎを削る。大店法の大幅改定(一九九二年)が作り上げた環境だ。N商店も全国のヨロズ屋さんもこの中で営業している。地産地消ならぬ「地売地買」の課題か。N商店が商売としてもきちんと繁盛できてこそ、Iさんたちの安心もあるのだ。「福祉」と「営業」は「まちづくり」という一つの糸に繋がる。

全国にはコミュニティビジネスという手法を使って、さまざまな地域課題を解決しているところがあります。
コミュニティビジネスには次の期待される4つの効果があると言われています。

- 地域経済の活性化、豊かな地域
- 安心安全な地域コミュニティづくり
- 一人ひとりに合った働き場づくり
- 地域の課題解決と生活環境の向上

買い物弱者支援に何とかしなくてはと思われているところも、一度この仕組みを検討されてはいかがでしょう。淡海ネットワーカーにもご相談ください。

9月16日に開催した協働サロン 講師 永沢 映さん(NPO法人コミュニティビジネスサポートセンター)の資料より出典

お互い様で支え合うみんなのお店 コンビニが地域のコミュニティをつなぐ役割に

セブンイレブン北近江高月店の余呉上丹生地区での取組み

長浜市余呉町上丹生地区は、百十四戸、人口三百三十人の集落。六十五歳以上の人口は三十七%。集落では日用品などを販売していた農協が撤退し、買い物は約10km離れた木之本町へとという状況でした。この地区で地元の人々と一緒に、四年前から週一回の出張販売を行う、セブンイレブン北近江高月店のオーナー阿閉喜成さんにお話を聞き、上丹生の店を訪ねました。

「最初は買い物支援という意識は無く、売り上げを目的に外へ販売に行きたいと思っていた時、上丹生地区で買い物先が無くて困っていると聞き、出張販売を始めました。」

毎週、地元の有志が開店の準備をして商品の到着を待っています。地元の人々にとっても大切な場になっているのが感じられます。人気はデイリー品と言われる、菓

子パン、菓子、ジュースなど。商品が無い場合は注文を聞き、次の週に持って行き対応しています。すぐ夕食に食べられるものや日々の楽しみにつながるものが求められているそうです。

「週に一回のお店は、お客様同士のコミュニケーションの場になっていきます。店員との会話も楽しみにしてくれていて、人とのふれあい、人間らしいおつきあいに感動しています。昔は地域の雑貨屋が人の交流と情報交換の場でしたが、現在のコンビニこそ、そんな場にしていきたいと思います。お店は物と人の交流の場です。地域のコミュニケーションをつなぐ場になりたいですね。」

将来の展望について、「採算は厳しいですが、上丹生地区の方々とお互い様に支えられて継続したいと思っています。将来は

毎日開店でき、今日は肉屋さん、明日は魚屋さんと協力できるお店ができる範囲で開店し、全ての注文に対応できるお店にするのが理想ですね。」と阿閉さんの思いは膨らみます。

各地で課題の買い物弱者への支援もコンビニなど企業と手を組むことで解決する道がありそうだと感じました。



▲週に1回のコミュニケーションの場



▲地元の有志が看板を出して待っている

自分たちのまちを自分たちで住みやすく

NPO法人耶馬溪ノーソンくらぶ

所在地：大分県中津市耶馬溪町大字大野一〇七五―一
開店は、土日祝を除く、月～木の午前九時～午後五時です。



▲リクエストに応じて品目が増えてきたノーソン。世代を超えた交流も広がっています。



▲ノーソンの地域の人々がくつろぎ、交流するスペース。

た。合併の二年前、地元で合併を疑問視する声が集まり「合併を考える会」が発足。各地で勉強会を開く中から、農協支所が廃止されたために高齢者が歩いて買い物に行ける場所が無くなり困っている現状が見えてきた。

大分県中津市耶馬溪町の津民地区は、二百戸、人口五百四十人の地区。六十五歳以上の人口は三十七%。この地域で日常の買い物を支える「ノーソン」は、地元を支えたいと住民が旧農協支所の建物を購入し、

高齢者の「置き忘れられた」というつらさから、「合併に反対するだけでなく、自分たちのまちを自分たちで住みやすくしよう」と活動が始まりました。

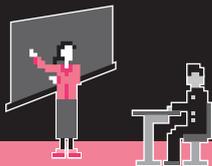
地域の人々が協力して改装を行い、近所に住む元農協職員の中畑榮子さん(75歳)が店長として切り盛りするお店。地元産の野菜を大手スーパーへ出荷する事業も行い、野菜の運搬のために5t級のバイクの免許を取った高齢者もいて、生き甲斐づくりも担っている。

二〇〇五年七月、「耶馬溪ノーソンくらぶ」がスタートし、ノーソン開店。一日平均来店者は八人、売上一万七千円。年間売上は約三百六十四万円。街の大手スーパーへの野菜出荷は年間約四百六十万円の売上になり、多い人で月十万円を売り上げる。現金が入ると買い物ができる。現金が元気の素になっている。キャッチコピー「コンビニは街に展開するが、ノーソンは志で提携し、限界集落に展開する」で地域の課題に向き合っている。

地域に人の交流と経済を蘇らせた「ノーソン」について、「ボランティア・市民活動研究交流会2010」(滋賀県社会福祉協議会主催)の報告から紹介します。
二〇〇五年三月の旧耶馬溪町と中津市の合併をきっかけにノーソンは生まれまし

「ノーソン」にあると思えました。地域の人々の努力と協力で、地域にあるインフラを活用して展開できるモデルが

代表●犬飼公一
設立●2007年 会員数●12名
連絡先●大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
TEL (「Atlas」専用携帯) 090-6206-8433
E-mail : atlas@belle.shiga-med.ac.jp
URL : http://atlas-sums.jimdo.com/



中学生への学習支援を通じて 「貧困の連鎖」を「希望の連鎖」 に繋がります！



▲学習風景です。ここが通い合う瞬間です。教えることは、自らも学び、成長することです。

サークル名は、ギリシャ神話の神「アトラス」に由来します。4年前の2007年5月、当時、滋賀医科大1回生だった代表の犬飼公一さんの呼びかけで結成されました。会員は、現在、龍谷大学の学生を含めた12名です。そして、結成2ヵ月後の7月、大津市内の生活保護世帯

および母子家庭の中学3年生を対象に「大津中3学習会」を立ち上げました。彼らを駆り立てたミッションは、“経済格差が教育格差を生み、更に「貧困の連鎖」に繋がる現代社会の弱者を支えよう”という熱い想いです。そこで、当面の目標は、経済的なハンディを抱える中学生の高校進学に向けた学習支援です。活動は週2回(18:00～19:30)、毎週月曜＝瀬田南市民センター、毎週金曜＝浜大津・明日都で、宿題を教えたり復習を手伝います。しかし「学習支援」だけではありません。ふれあうことが大切だと考えています。時には掛けがちな彼・彼女らの身近な友となり、兄・姉となって心の闇に明かりを灯します。いまでは、“自分探し”の貴重な存在になり、「学習会」設立後、この4年間の参加延べ人数は、中学生640人・大学生659人に上ります。大学生自身も、「教える」ことで「自らも学び成長できる」といいます。

犬飼代表は、「Atlas」が掲げるスローガンは、「貧困の連鎖」を「希望の連鎖」に繋げていくことだ」と、熱く語ってくれました。学習支援を受ける中3生がやがてボランティアとして輪に加わって、同じ境遇の子どもたちを支える「希望の連鎖」を生み出していくことが「夢」だと…。そのためにも、当面の課題は組織拡大にあるとして、一緒に活動してくれる人の募集に東奔西走の毎日です。

「全国学習会ネットワーク」も設立され若き医大生の「夢」が、全国に向けて発信される日も近いことでしょう。

(おうみネットサポーター 荒木 威)



▲スタッフの皆さんです。この明るい笑顔が中3生のところを癒し、希望を与えます。

★知っ得インフォメーション★

■買い物弱者を支えていくために ～24の事例と7つの工夫 ver.2.0～(経済産業省)

経済産業省では、社会的に大きな課題となっている買い物弱者(いわゆる「買い物難民」)に関して、事業者等による対応の先進事例集とその工夫のポイントをまとめた「買い物弱者応援マニュアル」をホームページで公表しています。「経済産業省 買い物弱者」で検索してください。

■福祉輪タク

彦根市中心部で、主に観光客向けの自転車タクシー「ひこね輪タク」を運営していますが、自動車が通行できない城下町の細い道も走ることが可能で、買い物や通院など出かけるのが難しくなった高齢者向けの「福祉輪タク」を運行しています。近距離から気軽に乗れることもあり、利用者に好評です。初乗り300円～

◆連絡先：NPO法人五環生活 自転車タクシー事業部
TEL：0749-26-1463



「買い物に困る高齢者のために地域にバスを走らせたいのだが」というご相談が少しずつ増え、おうみネット72号でも「まちのバスを考える～市民でつくる公共交通～」を特集しました。

各地で買い物や交通に関する課題が出ている一方で、地域に必要なものは地域に住む自分たちで支えていくことが、安心して住み続けられるまちづくりにつながると、動き出している人々の姿が見えてきています。

おうみネットは、これからもこのテーマをとおして、まちづくり、人々のつながりづくりをご紹介していきたいと思っています。

市民活動への期待

「互いの良さが活きる市民活動」

近年、私たちの地域を取り巻く社会環境は大きく変化してきています。滋賀県における外国人登録者数は、2010年の12月末現在では、26,471人になりました。

社会のグローバル化の進展、少子高齢化による労働力の減少傾向からみて、今後も外国人住民の定住化は進むものと予想されています。このようなことから、日本人も外国人も同じ地域に住む住民として、お互いの違いや良さを認め合いながら、共に新しい市民文化を築くことが求められています。そのような社会の実現に向けて、親子で色々な国の人たちと音楽、遊び等を通して交流し共感しあえる場をつくるため、子育てサークルと国際交流協会の協働で「親子育ちのための多文化保育サロン」を開催することになりました。

子育てサークルのコミュニティカフェでは、ゆっくり親子が遊べる安全スペースや地域に密着した育児情報を提供出来るし、国際交流協会では、色々な国から来ている外国人住民に参加を呼びかけています。社会情勢の変化に応じて市民活動団体同士がそれぞれの良さを発揮しながら協働を進めていくことが、地域社会に大きな活力をもたらすと信じています。



地域力を高める
メッセージコーナー

甲賀市国際交流協会
副会長 野口 喜代美さん

人と企業と NPOをつなぐ

HI・RO・BA



世間よし ~企業の社会貢献~

企業に限らず、市民と行政、行政と企業などの、新しい市民協働（パートナーシップ）のカタチを紹介します。

SEKENYOSHI

株式会社フタバヤ TEL : 0749-52-0467 FAX : 0749-52-0518 URL : <http://www.288.jp/info.html>

買い物によって絆をつなぎ、誰もが暮らしやすい地域をつくる

地域の人々を大切に考えるのが元になって、(株)フタバヤ(中川智之 代表)は、昭和39年に創業しました。近年、少子高齢化社会と言われ、「買い物弱者」という言葉も生まれる中、様々な取り組みを展開されています。

週4日毎日1便の無料運行で送迎する「ふれあい社交バス・ふたばす」、買い物した商品をナイロン袋に詰め変えずとも、お年寄りでも持ちやすい買い物カゴにそのまま入れて持ち帰れる「そのままバスケット」、一人暮らしのお年寄りを気づかい、食べやすい量を自分で選べる「惣菜バイキング」をいち早く導入されていま



▲「ふれあい社交バス・ふたばす」に乗りこむお客さん

た。当時、企画を担当されていた参与の中川紀久男さんは、「地域にある食品スーパーだからこそ地域の人の暮らしのことを考えなければならぬ。誰もが暮らし

やすい地域をつくることにつながれば」と言う。

フタバヤさんの現場を見ていると様々なお年寄りの笑顔に出会えます。「ふたばす」を利用し、買い物を終え「そのままバスケット」をさわやかに持って出てきたお年寄りの方に聞いてみました。「自分で買い物ができるし、一緒に買い物にきた人とおしゃべりも楽しみです。今では、休日には息子夫婦と一緒に買い物をしたりしているんですよ。」とうれしそうに話されていた。

中川さんは「このような取り組みは採算だけを考えたら難しいが、一企業の我々を含め、行政、市民が一緒になって地域を支えていく仕組みになってくれるといい。」と語っていただきました。フタバヤの経営姿勢は、これからの地域社会の絆をつなぐだろうと感じました。

(淡海ネットワークセンタースタッフ 膽吹憲吾)



▲買い物を終えて出てきた方の持っている「そのままバスケット」

障がい者支援



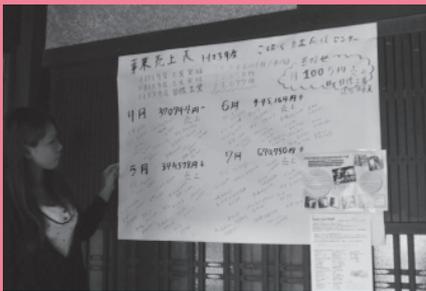
特定非営利活動法人

こほく自立応援センター

代表 ●松宮 顕昭
設立 ●2002年(2009年法人化) スタッフ ●8人
連絡先 ●長浜市堀部町590
TEL : 0749-65-0867
E-mail : kohoku_ziritu@yahoo.co.jp
URL : http://kohoku-ziritsu.moo.jp/

誰もがキラキラ輝き 自立して生きられる環境を 作りたい!

障がい者の就労と生活をサポートしようと2009年にNPO法人化しました。ここで働く障がい者の仕事として特徴的なのは、施設外の仕事が多いことです。障がい者が外に出て人と関わると、関わる人も障がい者への見



▲月毎の売上表と目標額を施設の入り口に掲示。目標工賃達成指導員でもある天谷さん。

方が変わり、心のバリアフリーにも繋がっています。段ボールの組立やリサイクル資源の回収等15種類以上の仕事があります。清掃作業ではピカピカに掃除をします。そのうち、周りから声をかけてくださるようになり、挨拶以外の会話も増え、掃除に行くのが楽しみという方もおられます。たくさん仕事を行う中で自分に合った仕事を見つけることもできます。

「作業所と言っても会社を経営しているのと同じこと。どれだけ仕事の効率を上げて工賃を引き上げられるか考えています。」と理事の天谷さん。



▲バイオ大学の学生さんが協力してくれ大学の古紙回収を行っています。

苦勞している点は、仕事を探すにあたり営業先の方は障がい者と知り合う機会が少ないので理解してもらうことが難しいこと。しかし、仕事を頂いている会社から口コミで話が広がり、他の会社から仕事の話を受けることがあります。

今年4月からは障がい児の学童保育ルームを開設しました。次は宿泊型のグループホーム設立を計画しています。この計画の実現のために企業や多くの方が応援してくれています。「たくさんの方に支えられてやってきている。これからも障がい者に限らず様々な方の自立を支える環境を作って行きたい」と天谷さんは力強く話してくれました。

(おうみネットサポーター 山名朋希)

NPOのIT活用術!

NPO法人 日野ダリア園
<http://hinodariaen.com/>

観て楽しく、現地に行ってみたくなる情報が満載!



2001年に廃校になった日野町の鎌掛小学校の60歳を迎えた同級生有志が「ふるさとへの恩返しと地域活性化を」と2002年にボランティアで開園したのが「日野ダリア園」です。夏から秋にかけて咲き乱れる150種類、約1万本のダリアをより多くの人に楽しんでもらうとホームページを開発。開花情報やいちご狩りなどのイベント情報を発信しています。HP担当の柚木さんは、「ダリア」で検索したときトップにくるよう、ダリア情報を充実。リアルタイムの情報発信で、観光会社や旅行会社、福祉事業団体、老人会団体などに見てもらい来場につなげるよう、心がけているということです。HPにはダリアの写真や栽培法などの情報も満載で、観て楽しく、行ってみたいくなるサイトになっています。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

ようやくスタート地点に

Ohmi Miraijyuku Relay Essay

4期生 竹腰 祐紀
グループ：よったり

「4期生・よったり」のみなさん、お元気ですか? 紙面をお借りしての近況報告方々リレーエッセイのバトンを受取りました。未来塾で学んで9年が経ちました。卒業してからは、身近なフィールドでの活動を求めて地元のまちづくり大学(ルッチ大学)で学び、現在卒業生で「どんべの会(食文化研究グループ)」を結成して月1回の例会と交流事業などを企画実施し、楽しみながら活動を続けています。最近では、仕事絡みで「米原市多文化共生協会(国際協会)」の設立に傾注してきました。3年間の調査を踏まえて審議会から協会の必要性を具申・提案していただき、関心のある市民に呼び掛け7月になんとか設立まで漕ぎつけた訳ですが、スタート地点に立った今、日本語教室や異文化交流、相談等の生活支援など課題やすべきことが山積しています。しかし、未来塾やルッチ大学で学んだことが、今の私の仕事や地域活動に活かされていることを実感しつつ奮起しています。



募集 未来ファンドおうみ
助成事業2012募集が
始まります!

市民の想いを込めた寄付を市民活動へつなく未来ファンドおうみの助成事業の募集が始まります。個人や企業などからお寄せいただいた寄付をみなさんの市民活動へつなげてください。
◇募集期間:2011年12月1日(木)~2012年1月21日(土)
◇助成期間:2012年4月~2013年3月
◇募集内容:①おうみNPO活動基金助成・おうみNPO活動基金は、滋賀県と企業、団体等からの寄付により2002年に設立し、市民活動団体の組織運営の強化を目的に助成を行います。②びわこ市民活動応援基金・関西アーバン銀行(旧びわこ銀行)様と社員のみなさまからの寄付により設立し、広く市民が参加するボランティアや市民活動への支援を目的に助成を行います。③びわ湖の日基金・びわ湖の日30周年を記念して開設し、琵琶湖につながる河川、森林、生活の環境保全活動へ助成を行います。④日本の元気な草の根のまちづくりを地域の人々とともに継続する活動を表彰します。
詳細については、当センターホームページをご覧ください。

イベント 未来ファンドおうみフォーラム
一人ひとりができること
あなたの寄付からはじまる絆~

「一人ひとりができること」を身近なところから、意識して行動することで社会がかわることをアルピニストでヒマラヤや富士山の清掃登山を行う野口健さんにお話をお聞かせします。
一人ひとりの行動が社会を変えます。寄付も社会を変える一つの行動です。私たちは、寄付をとおしてどんな社会をつくるのでしょうか。
◇日時:2012年1月28日(土)13:30~17:00
◇場所:県民交流センターピアザホール(ピアザ淡海)
◇プログラム
基調講演:「一人ひとりができること」
野口 健さん(アルピニスト)
報告:<寄付が伝えるメッセージ>
市民活動団体紹介・交流会

講座 NPOミニ講座のご案内

NPOの設立・運営についての講座を毎月第2金曜日に開催します。NPO法人の設立を考えている方、団体の運営について分からない方は、ぜひご参加ください。
◇日時:2011年12月9日(金)
2012年1月13日(金)
2月10日(金)
各日 14:00~15:00
◇場所:淡海ネットワークセンター ふらっとルーム
◇参加費:無料
◇内容:ガイダンス、制度、手続きの説明など(参加される方のご希望に合わせます。)
質疑・相談など
◇お申込み:開催日の前日までに、電話・メール・FAX等により、お名前と参加者数を淡海ネットワークセンターまでお知らせください。お一人からでも歓迎いたします。

お知らせ NPO法が改正されました!

2012年4月1日から施行されます。改正は以下の通りです。(一部抜粋)

- ①活動分野の追加
17分野の他、新たに3分野が追加されました。
- ②収支計算書が活動計算書に改められます。
NPO法人会計基準に沿った改正が実現されます。
- ③認定NPO法人制度が改正されました。
・認定NPO法人の認定事務が国税庁から所轄庁に移管。
・PST(パブリックサポートテスト)基準に3,000円以上の寄付が100人以上という絶対値基準を導入。
・実績が無いNPO法人にも朗報。計画による仮認定制度の導入。

編集後記

川端(かばた)から湧き出る水は年間を通じて12~14度で一定なんだそうです。夏は天然のクーラーに、冬は湯気が立ち上る暖かい空間になるとのこと。季節が変わる度に針江を訪れ、四季折々の自然と人々に会いに行きたいと思います。
(おうみネットサポーター 小林政夫)

取材を通して、若い人たちの魂に揺り動かされました。彼らの高い志と熱き心に脱帽といったところです。若い力の存在を、身近に感じることができました。心からのエールを贈ります。
(おうみネットサポーター 荒木 威)

今回お話を聞きした天谷さんはワーキングマザーとして仕事&子育ても頑張っておられました。その姿と目が「きらきら」輝いていたのでタイトルに入れました。若くしていろいろな勉強をし、新しいことに取り組む姿勢に刺激を受けました。いろいろな方が輝いて暮らせる社会を作るといふ、福祉の原点を改めて考えさせられ、また未来への希望が持てるような取材でした。これからも応援しています。ファイト!!
(おうみネットサポーター 山名朋希)

淡海
おうみネット 80

●2011 冬号●

Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

- 〒520-0801
大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
- TEL 077-524-8440
- FAX 077-524-8442
- http://www.ohmi-net.com
- E-mail:office@ohmi-net.com
- 開館時間/9:00~17:00
休館日/月曜日・祝日

●情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、びわ湖ホール、滋賀県国際協会、県内大学、県内NPO法人、県内市民活動センター、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、市役所、各地域環境総合事務所、県情報室など

チャレンジ25 アインズはチャレンジ25キャンペーンに参加しています。

EINS
CO₂排出権付 水なし印刷「グリーンアイ」
グリーンアイ
GREENeye
●製紙工程から印刷・デリバリーまで、すべての工程で排出されるCO₂をカーボンオフセットします。

アインズ株式会社
本社工場/滋賀県蒲生郡竜王町藤2291-3(〒520-2573) TEL(0748)58-8101(代)

さあ、行こう! 感動のシーンへ。

冠婚葬祭の送迎や小旅行等に気軽にご利用いただけるマイクロバスから開放的なサロンスペースを備えた団体旅行におすすめの大型バスまで幅広いラインナップで、くつろぎの移動空間をお約束いたします。

株式会社 余呉バス
〒529-0515 滋賀県長浜市余呉町中之郷1152番地1 | FAX:0749-86-8077
余呉バス http://www.zb.ztv.ne.jp/yogobus/ E-mail: yogobus@zbzvtv.ne.jp **0749-86-8066**

おたがいさまがつながり、生きる。

未来ファンド **個人の気持ち、企業のCSR**
おうみ 様々な“志”を地域に支える市民活動へ、しっかりつなぎます。

寄付をお考えの方、詳しい内容を知りたい方は、**淡海ネットワークセンター**にお気軽にお問い合わせください。

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌
「おうみネット」 掲載広告募集中!

★発行部数10,000部
★県内外の配布先約1,900カ所
★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円

詳細は、当センターまでお問い合わせください!